残念!!　国境越え

荻野美代

学校を出て講師をした後、本採用となった。それまで一度も聞いたこともない安塚高校であった。頚城丘陵というが本当にその通りで、休日などこの小高い丘を越えたら何があるかと、二・三コ登り下りしてもやはりそこには同じような景色しかなく、さみしい思いをしたものである。

よくみがき上げられた木造校舎の生物教室からは生徒の頭ごしに、ブナの木が見えた。その下には、カタクリや、トキワイカリソウが、雪国の春を楽しいものにしてくれた。

しなん　ざか

土地の方から、少し前まで信州から、米を買いに来たものだと聞き、「信濃坂」という地名もあり、又自分が生れ育った松本と重ねて、安塚町もぐっと親しみを増したものである。地図をみると、確かに須川・伏野・野々海とそれらしい道もある。自分の足で、県境をこえ、飯山線のどこかの駅にたどり着こうと考えた。

今まで未知の山へ一人で出かけたことなどなかった。先輩に食料だけはしっかり持つようにと教えてもらった。

二年目の夏休み、二日目、宿の奥さんには帰省しますといい、バスは反対方向へ乗った。今から思うと、私の行動はその日のうちに宿の奥さんに伝わっていたと思う。天気が良く、よく手入れされた稲が風にそよいでいた。須川から登って、尾根に達したところから左へ折れ、はじめての道に入る。ひとかかえもあるブナ林の中を異歌まじりで歩いた。スギ林と異なり、林内は明るく、気持ちがよい。

そのうちに道らしいものがなくなる。そんな所は歩いたことがないので、とても不安になる。笹の間に捨てられたジュースの空かんが見える。いつもは眉をひそめるのに、人の足跡とうれしくなる。又下りはじめる。一面ブナ林で、大きな倒木を越えながら、一面に生えるキノコを想像する。しかし道はない。又不安になる。身軽になって道を探そうとリュックを置く。夏の太陽が真上で照りつける。暑かったのだろうか。まゝよと、草の上に大の字になり空を見上げる。遠くの方で沢のすずやかな音もする。いろいろの思いが浮かんできて、もどることにする。

帰り道も直ぐわかったわけではないが、とにかく登山道へ出た。歩いているうち、上から男性二人大きな麻袋をかついで追い越していく。中身は何で、どこに居たのであろうか。

すっかり日は傾き、このまま下りても終バスはない。そこで山の中で眠ることにする。長袖を着、軍手、タオルで出てる所をなくし少し平らな所に横になる。下の菖蒲牧場の方から、キャンプの歌声が快く響く。星をみながら、寝つき目ざめたら朝。須川発一番のバスでいつもの信越線にのり帰省したしだい。後で聞けば、沢に向って下りれば、そこに飯山線があったのだそうである。

その後、町で「ああ伏野峠」なるものを計画して、峠越を行っていたが、一度も応募せずに町を離れてしまった。

（直江津高等学校）

長岡西中教諭
山谷　裕子

緑の風が私の体を通り過ぎていった

初夏、沢沿いの道を足元に気をとられながら一時間ほど歩いたでしょうか。「ほら、ここだよ」と言う友人の声にふと顔を上げると、目の前に明るい緑色の光に包まれた白い林が浮かび上がっています。

「きれいだねブナは」。

ああ、これがブナの林か。杉の林の濃い茶色い幹、暗い緑の葉の色と対照的な白い幹と明るく淡い緑色に透き通る葉。こんなに近くにこんなに美しい風景があったことを、私は今まで知らずにいたのです。

「お茶にしようよ」。ブナの大木の根元に腰を下ろして熱いお茶をすすりまします。

気が付くと友人は木に寄りかかり、目を閉じて、眠りかけています。林の声に聞き入っていたのかもしれません。ふっ、と風が私の体に触れて通り過ぎました。淡い緑色の葉がさやぐ。「ピーッツピッピピピピーッツ」「キョッキョッ」「ツピーッツピッ」。歩いている時には気付かなかった鳥の声が重なってきます。

朝の冷気で冷やされていたのでしょうか、それとも地中の冷たい水を体に吸い込んでいるからでしょうか。

「カサカサカサカサ」、私の体が動く度に乾いた枯れ葉が軽く鳴る。「サーッツ」、風に梢（こずえ）のかん。急ぐことはなかったんだ。私もブナの幹に寄りかかって静かに目を閉じてみました。

「生きているって感じがする」。眠っているように見えた友人がつぶやきました。

「いつまでもこうしていようか」

「サーッツ」。また淡い緑色の香りのする風が、ふっ、と体に触れて通り過ぎていきました。

時間がゆっくり、ゆっくり流れていきます。

緑色の葉の色に染まった風―そんな香りのする風が林の中を吹き抜けていくようです。

「生きているって感じがする」。眠っているように見えた友人がつぶやきました。

「いつまでもこうしていようか」

「サーッツ」。また淡い緑色の香りのする風が、ふっ、と体に触れて通り過ぎていきました。

時間がゆっくり、ゆっくり流れていきます。

新潟日報 1990.6.24（日）